

事業名 おうめ若者カフェ



1 実施団体

(特)子どもと文化のNPO 子ども劇場西多摩

2 担当課

市民活動推進課 社会教育課

3 実施時期

平成26年4月～平成27年2月

4 参加者 計322名

5 実施場所 福祉センター及び釜の淵市民館

6 事業の目的

市民活動団体や自治会活動の中に、若者たちの姿が少なくなり、まちの担い手の高齢化が課題となっている。平成26年に4年目となる、おうめ若者カフェ（若者たちがゆるやかに繋がりながら、青梅のまちづくりを考える）のネットワークを継続し、活動することで、①青梅に住み続け、青梅を愛し、活動する若者を育んでいく。②つどいやまち活動大交流会を通じて、青梅のよさを市内外に伝えていく。

③青梅市主催の若者も対象となる、まちづくり講座などへの積極的な参加を促し、若者の市政への参加を呼びかける

7 役割分担

- 団体の役割

- ① 事業の実施。
- ② 若者のネットワークづくりの周知及び運営

- 担当課の役割

- ① 広報周知
- ② 会場確保
- ③ 事業の実施への協力

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- ①若者が継続して活動をすることで、まちづくり活動に大切な力をつけることができた。
- ②つどい、まち活動交流会を通じて、「まち」のために何かしたい！と思っている人の気持ちを寄せ合い、交流することができた。
- ③「コト Bar」の開催によって、子ども達がどのような意見を持っているのか、地域の大人たちが直接コトバを交わすことができ、大人・子ども双方の信頼への一歩を踏み出すことができた。
- ④新たな登録者があり、SNSを通じたネットワークも、558名となった。今までまちづくりに関心はあっても、一歩踏み出すことのできなかつた人たちを巻き込むことができた。
- ⑤目的の3つめにあたる、市の主催の講座への積極的参加についても、社会教育課の青梅まちづくり工房へ、おうめ若者カフェ実行委員のメンバーが3名参加することができた。またまち活動大交流会の中でも、青梅まちづくり工房の成果を発表する場も位置づけ、連携のとれた活動ができた。

9 目標達成

事業の目標：①つどい全4回の開催と、実行委員会の運営

②おうめ若者カフェまち活動大交流会の開催と運営

目標の達成具合：

つどいを4回だけでなく、まち活動大交流会の打ち合わせも含め、5回の集まりを持つことができた。まち活動大交流会も、実行委員会の役割分担のもと、スムーズに開催することができた。

10 事業の実施内容

*5/27 つどい1開催 参加者 18名

内容：今年度のおうめ若者カフェの計画についての提案・討議

*7/12 つどい2開催 参加者 12名

内容：今年度の計画の決定・周知 交流会内容決めに向け討議

*9/14 つどい3開催 参加者 24名

内容：ネットワークづくりのための交流・大交流会打ち合わせ

*11/29 つどい4開催 参加者 17名

内容：2/8まち活動大交流会に向けての討議

*1/18 まち活動大交流会参加団体打ち合わせ会 参加者 31名

*2/7 まち活動大交流会前日準備 参加者 13名

*2/8 まち活動大交流会開催 参加者 207名

内容：市内の市民活動グループのPRコーナー、まち活動としてのパフォーマンスを行う団体のステージ、中高生と大人の語り合いの場「ティーンズ コト Bar」別紙チラシ参照

まとめ交流会 参加者 28名

*おうめ若者カフェのパンフレット作成 1500部

*実行委員会 5/14・6/30・9/1・11/10・1/18・2/7・2/26
他各担当者の打ち合わせ複数回

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	2
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	2
(3)協働の役割分担は適切だった	4	3
(4)協働相手は適切だった	3	3
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

つどいや講座、ステージの運営をしていた2013年度から、今年はステップアップし、具体的な活動の場として、まち活動大交流会を開き、自分たちで活動するだけでなく、市内のネットワークを広げることができた。またおうめ若者カフェの活動を多くの人に理解してもらえる場にもつながった。

「おうめ若者カフェ」とは何か？をもっと言葉にする必要性があることを、前年度の課題としてあげていたが、今年度はパンフレットを制作し、より明確なものとして提示することができた。またコンセプトも次年度に向けて、“若者の力をまちに”“おもいを行動に”“ここに住みたいと思えるまちに”の3つにまとめることができ、ビジョンが明確になった。

若者が集う青梅市、若者がまちづくりにかかわりたいと思える青梅市をつくるためには、その受け皿となる活動団体が必須と考えられる。公共性が高く、若者が具体的に活動し、力をつけ、青梅市を担える人に成長できる場を、今後とも市との協働として継続していきたい。

13 その他

来年度は 558 人のネットワークから、1700 人のネットワークを目指し、活動していきたい。